

厳原町内の3つのへき地保育所で 幼年消防クラブ結成式

3月1日、厳原町の3つのへき地保育所（豆酸・久根・阿連）で、幼年消防クラブが結成されました。

幼年消防クラブは、小さな子どもたちが火遊びをしないように防火意識を植え付け、また消防の仕事を理解してもらおうと設置されているもので、ハッピーを着て消防出初め式に参加したり、防火教室を行うなどの活動を行います。この3保育所での結成を受けて、市内31箇所すべての保育所に設置が完了しました。

結成式では、市消防本部より贈られた真新しいハッピーを着た園児たちが、「ぼくたち、わたしたちは守ります。ぜったい火遊びしません」と大きな声で防火の誓いを叫び、お祝いの踊りを披露しました。

日韓の架け橋として6年間活躍

朴 柄俊さん 帰国



ハンゲル講座や日韓交流業務などで活躍してきた対馬市国際交流員の朴柄俊さんが帰国することになり、3月24日、対馬を後にしました。

朴さんは、平成13年6月に旧上県町に赴任して以来、約6年間にわたり対馬と韓国との交流の架け橋として活躍してきました。なかでも平成15年に旧上県町と釜山外国語大学との間で初めて実施された日韓合同による海岸清掃は、朴さんが大学に呼びかけたことがきっかけで実現したものです。テレビや新聞などに取り上げられ大きく対馬をPRし、また国内外に環境保護を訴えるきっかけともなり、現在でも続けられています。

帰国後は、地元の釜山で会社員として活躍予定です。さらなる活躍を期待します。

本人からのお別れの言葉

「職務を終え、この度対馬での思い出と共に本国へ戻ることになりました。在任中はたくさんの方々から助けられ、楽しくやがいのある仕事ができました。心より感謝しています。初めての外国でなれない私を家族のように支えてくれた皆さんの顔、そして楽しい思い出やつらかった思い出などが走馬灯のように思い浮かびます。体は対馬から離れますが、心はいつまでも対馬を見守り、これからは影で対馬を支えて行きたいと思っています。最後に、お会いできなかった方、ご迷惑をおかけした方にはこの紙面をお借りして、お詫びしたいと思います。」

朴 柄俊



比田勝保育所お別れお茶会

3月7日、比田勝保育所でお茶会が開かれ、今年卒園を迎える17人の子どもたちが、華やかな着物に身を包み、日頃お世話になっている保護者にお茶を振る舞いました。

とても愛らしく、普段とは違う凛とした姿に、参加した保護者は目を細めていました。

